

## 館長だより第38号（2023・9）

令和5年（2023）度秋期特別展「律令国家成立前夜」の開催について

令和4年度夏期企画展「紀伊の地を馬が駆ける」は好評のうちに9月3日（土）に終了いたしました。御来観いただきました皆様に厚く感謝申し上げます。

さて令和5年9月30日（土）から令和5年12月3日（日）の予定で令和5年（2023）度秋期特別展「律令国家成立前夜」が始まりますので、ご案内いたします。

展示の趣旨は以下の通りです。

6世紀から7世紀は、古墳時代の大王中心の首長連合から、天皇中心の中央集権的な律令国家へと移行する時期とされ、この時期には、前方後円墳の築造が終わり、古代寺院の建立が始まるなど、社会の体制が大きく変化しました。こうした体制の変化は、大王（天皇）を中心とする畿内の中央政権によって推進され、急速に地方へ広がったとされています。

紀伊では、古墳群や集落の動向から『古事記』『日本書紀』に登場する紀氏により、和歌山平野を中心とした地域経営が行われたとの指摘があり、一方で、政権の直轄地である屯倉の設置記事や、南海道沿いの古代寺院の建立など、中央政権の影響の存在を示す資料や遺跡も多く見つかっており、律令国家の成立前夜の地方と中央の関係性が顕在化しています。

本特別展では、6世紀から7世紀（一部8世紀含む）の畿内の中央政権の動向を示す考古資料と、この時期の紀伊の古墳群及び古代寺院の出土品を紹介することを通じて、古墳時代の首長連合から古代の律令国家へ向かう社会の変化と、その変化が紀伊の古代社会の成立に与えた影響について考察するものです。

### 【展示構成と主な展示資料】

#### はじめに

#### 第1章 6世紀の中央政権と紀伊の変化

#### 第1節 6世紀前半の中央政権と紀伊

6世紀初頭に継体が即位し（『日本書紀』）、墓制の刷新や新たな地方勢力の勃興がおこる。一方、紀伊では『古事記』『日本書紀』に登場する紀氏の墓域とされる岩橋千塚古墳群で大型前方後円墳が次々と築造されます。岩橋千塚古墳群で採用された横穴式石室や埴輪にはこの地域独自の特徴が表れており、この時期の紀氏は畿内の中央政権と一線を画していた可能性があります。

（1）－1 6世紀前半の中央政権と新たな地方勢力  
今城塚古墳 石棺片、玉類、掛矢〔今城塚古代歴史館〕  
人物画像鏡（複製品）〔当館、原品国宝、隅田八幡神社蔵〕



今城塚古墳 石棺片

物集女車塚古墳 捩り環頭大刀、銀製耳環、須恵器【京都府指定文化財】〔向日

市教育委員会]

断夫山古墳 円筒埴輪〔名古屋市博物館〕

大須二子山古墳 画文帯仏獣鏡【名古屋市指定文化財】〔名古屋市博物館〕

(1) - 2 6世紀前半の紀伊の古墳

大谷山22号墳 馬具、須恵器〔和歌山市〕

大日山35号墳 埴輪、須恵器【重要文化財】、玉類、小札片、馬具片、胡籙金具〔和歌山県教育委員会〕

前山A58号墳 馬形埴輪、人物埴輪、須恵器、土師器、玉類、馬具〔和歌山県教育委員会〕

井辺前山6号墳 馬具、玉類、須恵器、鉄刀、鉄鉾、鉄鋌、鉈〔和歌山県教育委員会〕



大須二子山古墳 画文帯仏獣鏡  
【名古屋市指定文化財】

## 第2節 6世紀後半の中央政權の強化と紀伊

6世紀後半は、朝鮮半島の軍事的緊張を背景として中央政權の権力強化が志向された時期とされます。これは『日本書紀』に屯倉設置記事が多数掲載されることや、古墳時代後期最大級の前方後円墳が河内や大和で築造されたことからもうかがえます。紀伊では6世紀後半に岩橋型横穴式石室が広範囲に展開し、紀氏の勢力範囲の拡大がみられ、その一方で、畿内系石室などを採用した古墳の築造が確認されることから、これらの古墳と紀伊に設置されたとされる屯倉との関連が指摘されています。

(2) - 1 中央政權の強化

高屋築山古墳（安閑天皇陵） 須恵器、円筒埴輪〔宮内庁書陵部〕

五条野丸山古墳（畝傍陵墓参考地） 須恵器〔宮内庁書陵部〕

平田梅山古墳（欽明天皇陵） 円筒埴輪、土師器〔宮内庁書陵部〕

版本 日本書紀〔和歌山県立図書館〕

(2) - 2 展開した岩橋型横穴式石室

天王塚古墳 玉類、金銅製品、伝天王塚古墳出土付壺〔和歌山県教育委員会〕

将軍塚古墳 須恵器〔和歌山県教育委員会〕

山東22号墳 玉類、金製飾金具、鉄鏃〔和歌山県教育委員会〕

鳴滝1号墳 馬具、振り環頭金具、単鳳環頭大刀柄頭、須恵器〔和歌山県教育委員会〕

室山1号墳 須恵器〔海南省教育委員会〕、鉄鏃〔当館〕



天王塚古墳出土品

船戸山3号墳2号石室 銅釧、玉類、ミニチュア炊飯具形土器、須恵器〔和歌山県教育委員会〕

船戸箱山古墳 須恵器、円筒埴輪、耳環、玉類〔和歌山県教育委員会〕

岡峯古墳 単鳳環頭大刀柄頭、素環頭大刀柄頭、須恵器、玉類、耳環〔奈良県立橿原考古学研究所附属博物館〕



園部円山古墳 圭頭大刀・馬具

(2) - 3 非岩橋型石室の古墳と紀伊の屯倉

明楽4号墳 須恵器〔和歌山市〕

明楽5号墳 馬具、鉄刀、土師器〔和歌山市〕

寺山古墳群 耳環（1号墳）、須恵器（2号墳、13号墳、14号墳、15号墳）〔和歌山大学紀州経済史文化史研究所〕

小倉1号墳 須恵器、玉類、金製飾金具、棒状鉄製品〔和歌山市〕

園部円山古墳 馬具、圭頭大刀、須恵器、耳環〔和歌山市〕

川辺遺跡 須恵器〔和歌山県教育委員会〕

且来VI遺跡 須恵器〔海南市教育委員会〕

## 第2章 7世紀における古墳の変化と古代寺院の成立

### 第1節 前方後円墳の終焉と墳形の変化

7世紀前半、大王墓をはじめとした畿内の大型古墳の形は、前方後円墳から円墳・方墳に変化します。前方後円墳は古墳時代の首長連合を表すモニュメントであり、その終焉は畿内の中央政権が首長連合から中央集権的な国家を目指し始めたことを示唆し、この変化は、大型前方後円墳を連綿と築いた岩橋千塚古墳群やその周辺でも確認でき、畿内同様の在り方といえます。

(1) - 1 畿内の大型古墳の変化

太子西山古墳（敏達天皇陵） 埴輪片〔宮内庁書陵部〕

植山古墳 石棺片、三輪玉、須恵器〔橿原市教育委員会〕

叡福寺北古墳 土師器〔太子町教育委員会〕

塚穴山古墳 石棺片、土師器〔天理大学附属天理参考館〕



植山古墳 三輪玉

(1) - 2 紀伊における古墳の変化

井辺1号墳 須恵器、土師器〔和歌山市〕

寺内32号墳 須恵器〔和歌山県教育委員会〕

寺内 35 号墳 須恵器〔和歌山県教育委員会〕  
 寺内 57 号墳 須恵器〔和歌山市〕  
 鳴滝 2 号墳 須恵器〔和歌山県教育委員会〕  
 鳴滝 10 号墳 須恵器、土師器〔和歌山県教育委員会〕  
 泣沢女の古墳（天満 1 号墳） 刀子、耳環、玉類、須  
 恵器、土師器、歯〔有田川町教育委員会〕  
 岩内 1 号墳 銀装大刀、棺飾金具、鉄釘、土師器【和  
 歌山県指定文化財】〔御坊市教育委員会〕



岩内 1 号墳出土品  
 【和歌山県指定文化財】

## 第 2 節 本格化する寺院建立

6 世紀に日本列島へ伝来した仏教は、7 世紀前半に畿内の中央政権の庇護下で急速に普及します。最初の本格的な仏教寺院である飛鳥寺を皮切りに、各地で古代寺院の建立が始まりました。紀伊でも、7 世紀を通じて南海道沿いを中心に多くの寺院が建立されており、これらの寺院から出土した瓦の文様から、各寺院と大和の諸寺院、ひいては特定氏族との直接的なつながりを読み取ることができます。

### (2) - 1 畿内における古代寺院の成立

檜前寺跡 「呉」刻書丸瓦〔奈良文化財研究所飛鳥資料館〕、軒丸瓦〔奈良文化財研究所都城発掘調査部飛鳥・藤原地区〕

坂田寺跡 軒丸瓦、軒平瓦〔奈良文化財研究所都城発掘調査部飛鳥・藤原地区〕

飛鳥寺塔心礎出土品 玉類、耳環〔奈良文化財研究所飛鳥資料館〕

川原寺裏山遺跡 方形三尊博仏、緑釉水波文博〔明日香村教育委員会〕

### (2) - 2 紀伊の古代寺院

上野廃寺 軒丸瓦、軒平瓦〔和歌山県教育委員会〕

西国分廃寺 軒丸瓦、軒平瓦〔和歌山県教育委員会〕

最上廃寺 軒丸瓦、蓮華文帯鷗尾、如来立像博仏〔和歌山県教育委員会〕

北山廃寺 軒丸瓦、軒平瓦〔和歌山県教育委員会〕

佐野廃寺 佐波理椀、鷗尾片、三尊博仏、軒丸瓦、軒平瓦、土師器〔かつらぎ町教育委員

会〕

神野々廃寺 軒丸瓦、火頭形三尊博仏〔当館〕



飛鳥寺塔心礎出土品  
 (展示品は一部)

## 第 3 章 律令国家と紀伊



## 第1節 律令国家の成立と紀伊の変化

大化改新、壬申の乱、天武・持統朝を経て、701（大宝元）年に中国唐の法体系に倣った律令が制定され、中央集権的な国家機構が本格的に整えられました。紀伊でも国府・郡衙など地方の行政機構が整備され、また古墳の築造が終焉を迎え火葬の慣習が広がるなど、大きな社会の変化はほどなく受け入れられました。

府中遺跡 須恵器、土師器〔和歌山市〕

鳴神Ⅴ遺跡 須恵器、土師器、「大」墨書土器〔和歌山県教育委員会〕

堅田遺跡（日高郡衙跡） 須恵器、円面硯〔御坊市教育委員会〕

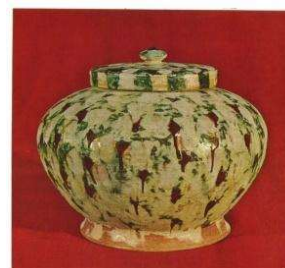
紀伊国分寺 軒丸瓦、軒平瓦、鬼瓦〔和歌山県教育委員会〕

名古屋火葬墓 奈良三彩薬壺形有蓋蔵骨器（複製品）  
〔橋本市教育委員会、原品重要文化財、京都国立博物館蔵〕

大同寺墳墓 金銅製蔵骨器【和歌山県指定文化財】〔個人蔵〕

鳴滝2号墳 須恵器蔵骨器〔和歌山県教育委員会〕

花山50号墳 蔵骨器、人骨〔和歌山県教育委員会〕



名古屋火葬墓 三彩釉蔵骨器（原品重要文化財、展示品は複製）

## 第2節 古代社会のなかの紀氏

『古事記』『日本書紀』に登場する紀氏は、古墳時代後期ごろに紀臣・紀直に分化したと指摘されています。紀臣は、『日本書紀』によると7世紀以降畿内の中央政権での活動が記録され、9世紀頃まで活躍したことが伺え、もう一方の紀直は律令国家の成立以降も紀伊国造家として紀伊に留まり、祭祀・政治の両方で中心的な役割を占め、激動の社会の中で血脈を保ち続けました。

版本 日本書紀〔和歌山県立図書館〕

三里古墳 馬具、須恵器、土師器〔奈良県立橿原考古学研究所附属博物館〕

紀寺跡 軒丸瓦、軒平瓦、大型独尊埴仏〔奈良県立橿原考古学研究所附属博物館〕

紀吉継墓誌（複製品）〔太子町教育委員会、現品重要文化財、妙見寺蔵〕

紀伊国那賀郡司解（複製品）〔和歌山県立博物館、現品国立歴史民俗博物館蔵〕

秋月遺跡 土師器、須恵器、馬形、斎串〔和歌山県教育委員会〕



三里古墳出土品

おわりに

### 【関連行事】

#### ・特別シンポジウム「古墳時代から律令国家への変化と紀伊」

令和5年11月5日（日）13:30～16:30

古墳時代から律令期に発生した社会の大規模な変化とその意義、紀伊に与えた影響について、考古学・文献史学の両面からひも解きます。

講演「6～7世紀の王権と古代氏族」高橋照彦氏（大阪大学）

報告「飛鳥寺塔心礎埋納品からみた仏教の受容」諫早直人氏（京都府立大学）

報告「文献から読み解く古代氏族の動向」溝口優樹氏（中京大学）

事例報告「紀伊の古代氏族とその遺跡」上村 緑（当館）

討論

### 【特別展関連講座】

県内外の研究者を招き、展示にかかわるトピックについて講座を行います

**第1回** 令和5年10月15日（日）13:30～16:30

「終末期古墳と紀伊」上村 緑（当館）

「発掘調査からわかる紀伊の古代寺院」富加見泰彦氏（元和歌山県立紀伊風土記の丘）

**第2回** 令和5年10月22日（日）13:30～16:30

「天理の古墳と物部氏」藤原郁代氏（天理参考館）

「瓦からみた紀伊と大和」丹野 拓氏（和歌山県教育庁）

**第3回** 令和5年11月19日（日）13:30～16:30

「石室からみた畿内と紀伊」堀 真人氏（財団法人滋賀県文化財保護協会）

「蘇我氏と渡来人の古墳」平井洸史氏（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）

展示講座

### 【期間】

令和5年9月30日（土）～令和5年12月3日（日）

### 【開館時間・休館日】

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日または休日の場合は次の平日）

### 【入館料】

一般：360円（20名以上団体割引290円）

大学生：220円（20名以上団体割引160円）

\*高校生以下、65歳以上、障害者手帳などをお持ちの方及び県内在住の留学生は無料（証明書の提示が必要）

### 【連絡先】

和歌山県立紀伊風土記の丘 640-8301 和歌山市岩橋 1411  
TEL073-471-6123、FAX073-471-6120